

学校だより

翔 空

No. 36 平成24年 1月13日(金)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

【行事予定を紹介します】

- ※1 / 16 ~ 2月中旬
- 1月20日 帝京安積推薦選考
尚志高校特待・推薦
- 1月20日 喜久田地区懇談会
19:00~ 喜久田ふれあいセンター
※当日参加も歓迎です
- 1月22日 県中バドミントン大会
- 1月23日 日大東北推薦選考~24
尚志一般選考
- 1月26日 3年期末テスト
- 1月27日 漢字検定試験
- 1月28日 県中バドミントン大会
- 1月28日 (バレー1年生大会
29日 県中バスケット大会
- 2月 1日 新入生説明会(新1年)
- 2月 2日 県立I期選抜
- 2月 6日 日大東北一般選考
- 2月 7日 県立I期合格内定

【百人一首を覚えましょう!】

【冬に雪が積もる富士山を、田子の浦から眺めて詠んだ歌】
やまべのあかひとさく
山部 赤人作

田子の浦に
うら出でてみれば
白妙の
ふじの高嶺に
雪は降りつつ

(田子の浦に出かけて遠くを眺めると、真っ白な富士山の山頂にしきりに雪が降っていることだよ。)



「壁に耳あり障子に目あり」
~植物だって耳をそばだてて聞いているのです!~
今回のテーマは、「壁に耳あり障子に目あり」ですが、決して悪いお話ではありません。みなさんは、こんな話を聞いたことがありますか。(蘊蓄の一つとして)
ピーター・トンプキンとクリストファー・バードの両氏は、「植物の知られざる生活」(The Secret Life of Plants) という本の中で、次のようなことを述べてます。

「あなたは、植物に語りかけていますか。そして、植物に愛情と愛着を持っていますか。私たちは、毎日のように、植物に語りかけ、愛情を注がなければなりません。そうしないと、・・・」

二人は、ある実験を行いました。違った場所に同じ花の種を植え、1つの鉢に植えた花には、毎日のように愛情を注ぎ、明るい話を語り続けました。もう1つの鉢に植えた花には、暗い話題のみを話し続けました。半年経ったところで、それぞれの成長の度合いを確かめ比較してみると、何と愛情を受け続けた花は愛情を受けなかった花よりも大きく、しかも、根っこは長く大きくはり、茎や葉も太く大きいものとなっていたのです。

このように、植物も人間の話をひそかに聞いて、反応しながら育っているということが言えるのではないのでしょうか。植物の前では、決して悪口を言ったり、暗い話(ネガティブな話)をせず、明るくポジティブな話をしたいものです。人の場合であればなおさらのこと、人前では当然のこと、どんな時でも悪口を言うべきではないと思います。どこでどんな人が聞いているとも限らないのですから。

「壁に耳あり障子に目あり」

